

「三重県 心のノート」活用事例

校種	小学校	学年	6年	内容項目	4－(7)
主題名	伝統や文化を尊重する				
資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・古きよき伝統 これまでも、これからも 松尾芭蕉 「三重県 心のノート 小学校5・6年」(三重県教育委員会) ・見つめようわたしのふるさと そしてこの国 「心のノート 小学校5・6年」(文部科学省) 				
ねらい	松尾芭蕉の努力や俳句のよさを知ることにより、郷土や我が国の伝統や文化を大切にしようとする気持ちをもつ。				
展 開	学習活動と主な発問		指導上の要点		
	<ol style="list-style-type: none"> 1 自分たちのまわりには、たくさんの日本の伝統や文化があることを知る。 2 松尾芭蕉について知る。 3 松尾芭蕉の生き方や、俳句のすばらしさについて考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(発問) 松尾芭蕉の資料を読んで、感じたことを出し合ひましょう。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 4 俳句をつくってみる。 5 今日の学習で感じたことを交流する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・社会科の学習と関連させながら、俳句について思い出させる。 ・難しい語句は説明しながら、資料を読んでいく。 ・松尾芭蕉が、伊賀出身であることや芭蕉の功績、どんな生涯を送ったのかなどに気をつけながら読むように促す。 ・松尾芭蕉の生き方や功績(俳句を芸術に高めていったこと、俳句が世界に広がっていることなど)に注目させる。 ・俳句づくりへの興味を持たせるため、芭蕉の俳句をいくつか紹介し、季語もいくつか知らせる。 		
他の教育活動との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科「江戸時代を生きた人々」 ・国語科「秋は、人恋し」(季節の言葉 秋) 				

<成果>

- ・ 松尾芭蕉は知っている子も多く、社会科の「江戸時代の文化」でも学習をしており、興味をもって学習を進めることができた。
- ・ 芭蕉の俳句は知っていても、生き方については、知らない子がほとんどであり、芭蕉の生き方や俳句のよさについて知ることができた。

<課題>

- ・ 資料がたくさんあり、ゆっくり考える時間をとることができなかった。資料の中でどこに注目させるかをしっかり考えて進める必要がある。

<児童の感想>

- ・ 松尾芭蕉の学習をして感じたこと、思ったことは、のべ約4800kmも歩いたことは、すごいことだと思いました。松尾芭蕉は、後の時代に俳句を残したかったんじゃないかと思いました。
- ・ 松尾芭蕉がこんなに有名だとは今まで知らなかった。俳句が世界に広がっていることも今日の授業で初めて知った。松尾芭蕉は、俳句づくりに命をかけてすごいと思った。
- ・ 松尾芭蕉が作った俳句が、世界にも広がっているので、すごいと思った。同じ三重県出身なので、うれしいです。
- ・ 文化は受け継がれていき、大勢の人たちが楽しんで取り組めるので、いいと思う。
- ・ 伝統が今も続いているのがすごいと思った。伝統は作る人がいて、それを守る人がいるから続くんだなと思った。
- ・ 日本の伝統を守っていかなくてはいけないものだと改めて感じた。
- ・ 欧米の文化もいいけれど、日本に住んでいる以上、日本の伝統を大切にすることが改めて分かった。

おくのほそ道

みち

まつおばしょう
松尾芭蕉

つきひ はくたい かかく ゆ うとし
月日は百代の過客にして、行きかふ年も

たびびと ふね うえ しょうがい
また旅人なり。舟の上に生涯をうかべ、

うま うち え お う もの
馬の口とらへて老いをむかふる者は、

ひびたび たび こじん
日々旅にして、旅をすみかとす。古人も

おお たび し
多く旅に死せるあり。

はいく

俳句

まつおばしょう
松尾芭蕉

ゆ はる とり な うお め なみだ たびだち
行く春や鳥啼き魚の目は涙 (旅立)

なつくさ つわもの ゆめ あと ひらいずみ
夏草や 兵どもが夢の跡 (平泉)

さみだれ はや もがみがわ もがみがわ
五月雨をあつめて早し最上川 (最上川)

あらうみ さど どうあま がわ えちごじ
荒海や佐渡によこたふ天の河 (越後路)